

—相撲部—



- 体育会名：関西学院大学体育会相撲部
- 創部年：1890年(明治23年)
- 2025年度会員数：6人(4年2人、3年1人、2年2人、1年1人)

□ 同窓倶楽部名：関西学院大学体育会相撲部同窓倶楽部

□ 同窓倶楽部通称：—

□ 設立年：—

□ 会員数：170人(男性161人、女性9人)

\* 物故者含む

関学が上ヶ原へ移転した1929(昭和4)年以降、相撲部は全国学生選手権(インカレ)で団体優勝5度(31、41、46、50、51年)、個人優勝(学生横綱)6度(40、41年井口義明、46年中村富次、48、50、51年有光一)という輝かしい戦績を残している。

また、25年に始まった西日本学生選手権では、団体優勝21度、個人優勝22度を誇る。その強さは、36年「大阪毎日新聞」の第4回関西選抜八校相撲大会記事、「大会創始以来連続覇権を独占する関学が依然名を為すか、各校の宿望『打倒関学』が成るか」などに明らかであろう。

また翌37年、学生相撲のハワイ遠征のメンバーのうち「木村君は関西一と謳わるゝ角技練達の選士」(「日布時事」と評されたのは、後年の関西学院同窓会長として活躍した木村正春であった。

さらに戦前、部の発展に情熱を傾け、部員に心より慕われた北野大吉教授(顧問)の名も忘れることはできない。

その後、60年代の大学紛争の頃よりしばらくの低迷期を迎えるが、やがて高校での相撲経験者が多く入学することによって、次第に往時の勢いを取り戻してきている。

その後の全国制覇としては、75年より始まった全国個人体重別選手権で、2005年10月に75<sup>kg</sup>未満級で初めて田中正幸が優勝(当時田中はレスリング部員だった)。11年9月には宇良和輝が65<sup>kg</sup>未満級で、12年9月には渋谷暢秀が75<sup>kg</sup>未満級で、14年9月には田中雅樹が7<sup>kg</sup>未満級で、19年9月には田中優汰が85<sup>kg</sup>未満級でそれぞれ優勝している。

また近年、相撲のグローバル化に伴って13年10月、第2回世界コンバットゲームス(於・ロシア、サンクトペテルブルク市)で宇良和輝が相撲・軽量級に出場し、金メダリストとなり、相撲

部として初の世界チャンピオンを輩出した。その宇良は15年3月に部史上初の角界入り(木瀬部屋)して、わずか1年で新十両。その後幕内上位で大けがをして、いったん序二段まで下がるものの、幕下で再度大けがをするなどの苦難を乗り越え再入幕。小結にまで昇進し、今や幕内上位を続ける人気力士となった活躍ぶりは、皆様のご存じの通りである。

(文責:石坪昭宏 昭和45年商卒)



